

大田区の中小企業の現状と政策課題

2010年4月13日

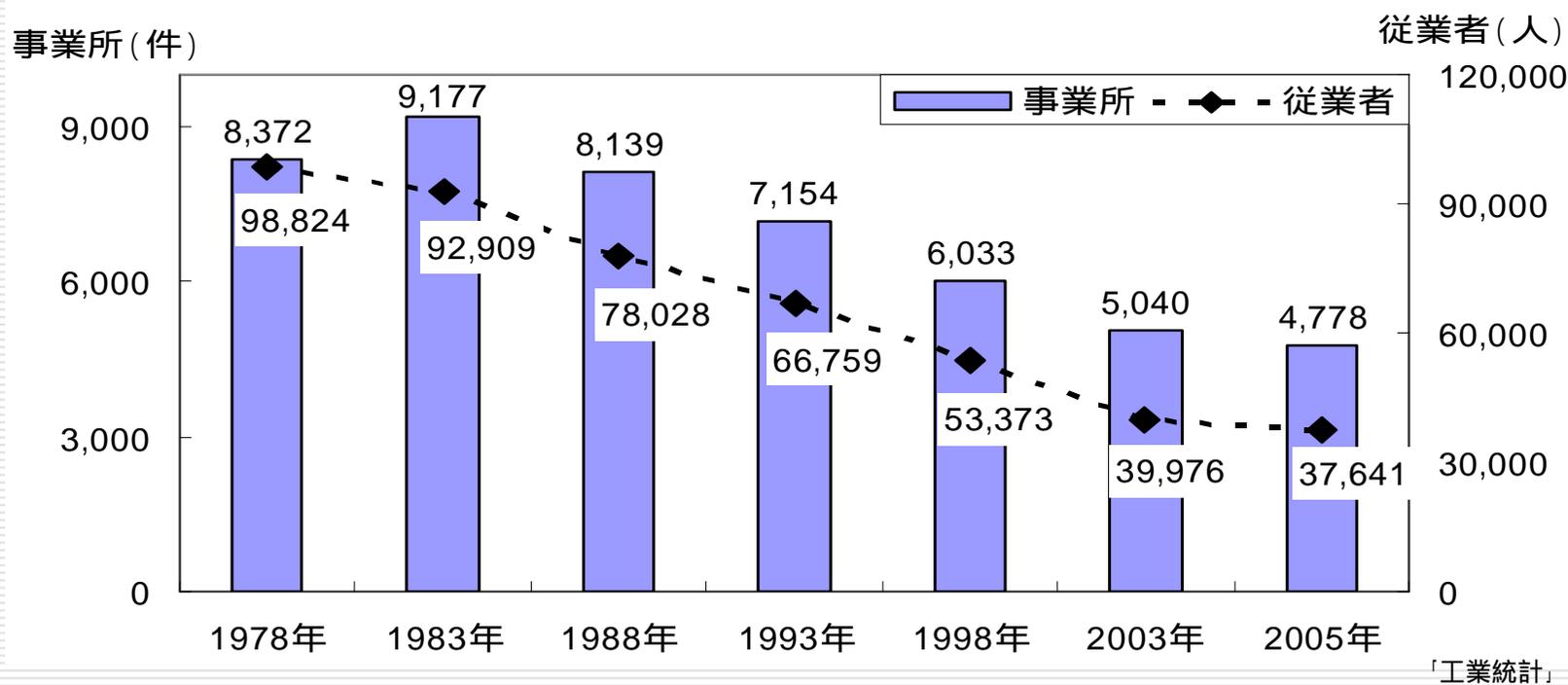
大田区長 松原忠義

大田区のものづくりは日本の製造業の基盤を支える

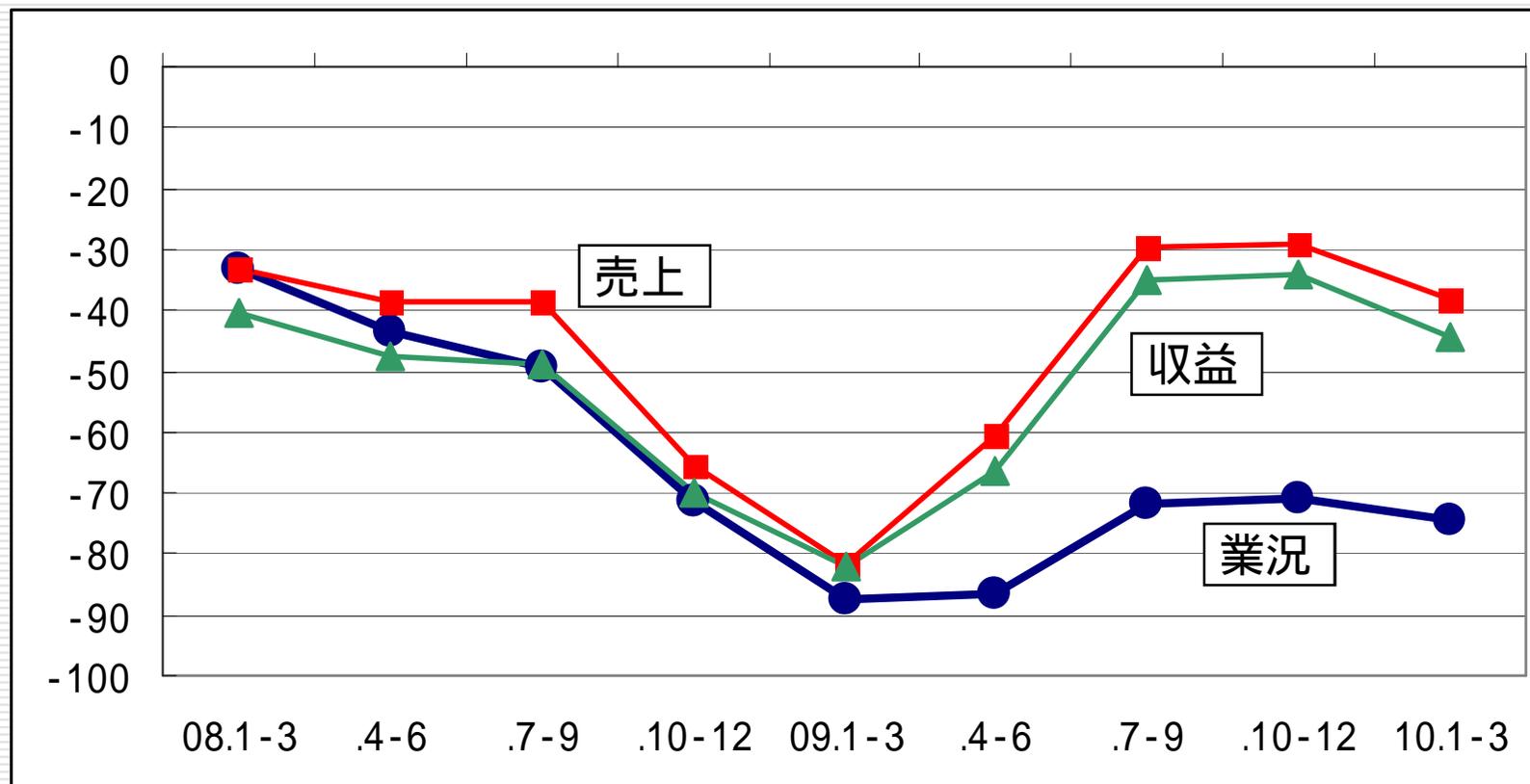
- 日本屈指の製造業集積
4,351事業所 従業者33,899人 製造品出荷額 7,095億円
(2008工業統計速報)
- 機械・金属加工が全体の85%
切削、研磨、プレス、熱処理、めっき、鍛造、鋳造など一連の集積
- 精密加工、難加工、信頼性の要求される部品、短納期などに対応
自動車、家電、航空機、半導体製造、原子力関連の部品など
- 事業所の82%が従業員9人以下

大田区製造業の企業数は減少

【大田区製造業の事業所・従業員の推移】



大田区製造業の景況(D.I.調査): 底は脱したものの再び下落



「大田区 中小企業の景況」 大田区産業経済部産業振興課 調査実施 (株)東京商工リサーチ

大田区製造業の景況(D.I.調査): 今回の不況は優良企業にも大きな打撃

	2002年1-3月期 (前回の不況の底)	2009年1-3月期 (今回の不況の底)
良い	5.3	3.5
普通	28.6	4.6
悪い	66.1	91.9
D.I.	-60.8	-88.4

- 大田区の中小企業は技術を磨き、高付加価値化の路線をとってきた。従前は景況が悪くなっても3割強の事業所は影響が小さい状況。
- しかし、今般の不況では差別化、高付加価値化した企業を含め大きな打撃を受けている。

大田区製造業の経営者の声

- 受注が出ても価格が抑えられ、利益が出ない
- 大企業から海外生産シフトのため発注がなくなると通告
(ものづくりが日本から消えるのでは)
- 将来への不安から設備投資、人材投資を抑制

- 金融支援よりも「仕事」が欲しい

生き残るためには

- 更なる高付加価値化
- 新市場開拓 (環境、医療福祉、航空機など)
- 海外市場開拓 (成長するアジア市場など)
- 集積の維持・発展

政策的な論点

- 中小企業対策として、セーフティネットも必要だが、製造業が日本に残る仕組みづくりが重要。

(大企業・中堅企業を含め国際競争の中で日本の製造業が生き残る仕組み)

- 大田区、東大阪などでは、中小企業の産業集積を守る仕組みづくりが必要。

(企業数の減少に歯止めをかけるプロジェクト、ビジネスインフラの整備)

要望

- 税制の見直し
 - 法人税の引き下げ(全体)
 - 中小企業税制(軽減税率の継続・対象所得800万円の金額引上等)
- 環境・医療福祉分野等における公共プロジェクト
 - 大企業と中小企業の共同プロジェクト
- 大田区、東大阪などの産業集積支援
 - 工場用地の引継ぎ支援、工場アパート支援など
- 羽田空港の国際化を日本の産業競争力強化に
 - 産業支援拠点、コンベンションセンター、保税加工区など